

越生小学校

7月17日(金)に、2年生が越生町上野産と如意産の2種類のとうもろこしの皮むき体験を行いました。こどもたちは最初皮むきに戸惑っていましたが、何本もむくうちに丁寧にむけるようになりました。その後給食でおいしくいただきました。



梅園小学校

7月17日(金)の朝、2年生が「トウモロコシの皮むき」を行いました。はじめは時間がかかりましたが、2本目、3本目…とだんだん作業が早くなり、みんなでたくさん皮をむくことができました。新鮮なトウモロコシはすべて越生産!この日は給食最終日で、このトウモロコシが給食で提供されました。



越生中学校

7月7日(火)に、西入間警察署の方を講師にお迎えして、交通安全教室を実施しました。生活委員の3年生による発表や警察の方のお話を通し、交通安全への意識をより一層高めることができました。



おごせ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加するこどもたちを写真で紹介するコーナーです。

心を解放して

越生みどり幼稚園

【あとりえみどり】

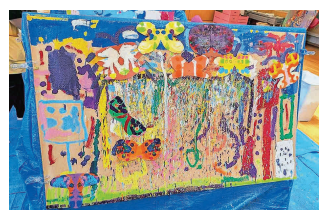
園内の絵画教室「あとりえみどり」は、各クラス一学期に一回ずつ行っています。講師は、久保田友恵先生です。こどもたちは、久保田先生の話が大好きです!!毎回どんなことをするのか、く〜とキラキラ目を輝かせながら、お話を聞いています。

絵の具遊びでは、好きな色を選び、好きなように表



どもたちの自由な発想、表現力にはいつも驚かされます。こどもたちの作品は、一人ひとりの思いがたくさん詰まった、世界でたった一つの大切な宝物です。

現をします。たくさん、の色をつかい、混ぜて色が変化する事を楽しんで、筆でなく手



越生浪漫 No.211

「眠れる道灌像」はこうして越生町にいらした

関東三大梅林の一つ越生梅林で知られる人間郡越生町は、埼玉県のほぼ中央に位置する人口約1万人の静かな町です。平野が尽き山地と出会う、関東の要衝として古くから開け、中世には越辺川上中流域の広い範囲が越生郷と呼ばれていました◆太田道真道灌も、政治経済上重要なこの地を拠点としていました。越生町には、道灌生誕の地と伝わる龍ヶ谷の山枝庵、父子が再興した名刹龍徳寺、道灌に家督を譲った後に道真が居を構えた「太田道真退隠地」(県指定旧跡)「七重八重……」伝説の故地「伝山吹の里」(県指定旧跡)などの古跡が遺っています◆太田道灌公には、観光地越生の黎明期から、郷土の偉人として町のイメージアップに貢献していただいております。

ります。例えば、昭和8年(1933)に八高線開通を記念して発表された野口雨情作詞の『越生小唄』の一番は、「歌に床しいあの山吹の里よ武蔵の越生町」です◆昭和30年に、名所黒山三滝や梅林を擁する梅園村と合併して以降、越生町は首都近郊の行楽地として一層脚光を浴びるようになりました◆時を経て、平成28年(2016)には、観光振興、地域経済活性化、町民の健康づくりを目的に、全国初の「ハイクングのまち」を宣言しました◆令和元年11月9日、「太田道灌をNHK大河ドラマへ推進連絡協力会」の会長をお受けしている縁で、「日暮里道灌まつり」に参席した越生町長に、太田資曉理事長から「眠れる道灌像」の情報が伝えられました。伊勢原市役所前に立つ銅像と同じ鋳型で造られた双子の兄弟像1体が、目の目を見ることなく転々とし、神奈川県内のある場所に保管されているというお話です。折しも越生駅の整備が進行中で、駅前にあふましいモニュメントとして、購入を検討することになりました。その年

の暮れに、太田理事長、尾崎理事に同道して初めて対面した像は、多少のほこりを被ってはいたものの良好な保存状態で、どこか寂しげな表情を目的の通りにし、ぜひ我が町に招きたいとの思いが沸々と湧いてきました◆像の所有者は海外在住で、交渉は難航が予想されました。しかし、代理人の会計事務所代表T氏が、鎌倉、扇が谷在住の中世史研究者としての顔を併せ持つという僥倖に恵まれ、協議は順調に進展し、翌春、無事越生町が譲り受けることができました◆昭和50年に、この太田道灌像を製作したのは四代目慶寺丹長(1919〜1991)で、昭和29年に父三代目と共作した横浜市掃部山公園の「井伊掃部頭直弼像」をはじめ、小田原城復元天守閣の鯨(昭和35年、川崎市新田神社の「新田義貞像」(昭和37年)、亀戸天神社の「一五歳菅公像」(昭和52年)などの作品があります。なお、三代目慶寺丹長は、戦前、全国の小学校に建立された二宮金次郎像約千体の作者として名を遺しています◆折損していた矢先を

越生町の工芸家が復元し、像全体の修復と据え付けは銅器生産の本場富山県高岡市の専門業者に委ねました。奇しくも、業者の工場所在地は、越生町慶寺家の本貫地である高岡市長慶寺でした。越生町では、地元の石材店、土木事業者、電気工事店が結集して台座を設け、建立を待ちました◆令和2年12月19日、太田理事長も臨席のもと除幕式を挙行し、越生駅西口ロータリーに、見事に蘇った道灌像が勇姿を現しました。台座には、町長が「太田道灌公に学ぶ文武両道」と揮毫しました。この日は、「道灌おもてなしプラザ」の愛称が付けられた越生駅西口総合案内所の竣工式も行われ、コロナ禍に沈滞する町にとって、久しぶりの明るい話題となりました◆インターネットのデータベース「日本の銅像探偵団」によると、屋外に立つ太田道灌の銅像は越生駅前像を含めて全国に13体あり、偉人像ベストテンに入っています。いずれも名匠による優れた芸術作品で、うち7体が埼玉県内、3体が東京都内に建てられており、旧武

蔵国内での道灌人気を物語っています。一方、埼玉県内では意外に少なく、熊谷駅前の熊谷直実像(昭和49年建立)が有名ですが、ほかには平成以降に設置された松尾芭蕉(草加駅)、渋沢栄一(深谷駅)、堀保己(本庄早稲田駅)の銅像があるぐらいです◆越生町にはもう一体、龍徳寺境内に、川越市役所前像を手掛けた橋本次郎による昭和60年建立の道灌像があります。小学校の社会科見学の際には、この像の前で、「太田道灌は江戸城を築き、今の東京の基を作った人です。道灌は越生で生まれたと言われています。越生がなかったら東京もなかったかも知れません」と教えています。長じた子どもたちが朝な夕な駅頭で見上げる名将の銅像が、ふるさと越生のシンボルとして愛され、末永く乗降者を温かく送り続けてほしいと願っています。越生町教育委員会生涯学習課 文化財担当 石川久明(太田道灌顕彰会編「太田道灌公五百四十回忌記念誌」に寄稿)